

English Catch Program Vol. II

北海道教育庁学校教育局義務教育課

小・中学校においては、外国語教育の充実に向けて、言語活動を行う際の生きたモデルや、実際にコミュニケーションが行われている様子を示すなど視聴覚教材等を活用し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識した活動を充実させることが求められています。

道教委では、昨年に引き続き、道内のスポーツチームと連携し、外国人選手や日本人選手の協力による実際のコミュニケーションが行われている様子を示した映像資料を作成しました。

各学校においては、子どもたちが主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができるよう、1人1台端末を活用するなどして、本教材を御活用ください。

映像資料の概要

- 対象：小学校第6学年及び中学校全学年
- 構成：「Basic」と「Advance」の2つのコース
各コースとも「字幕なし」「字幕あり」「チャレンジ」の3つのバージョン



映像資料	◆主な内容・表現	動画QRコード
[Basic] レッドイーグルス北海道 ○ チームの紹介	◆チームや町について発表 ・"can"、"be going to～" など	
[Basic] ひがし北海道クレインズ ○ シュート練習	◆できることについてやり取り ・"can"、"be good at～" など	
[Basic] デンソー北海道 ○ 町の紹介	◆町の観光地について発表 ・"There is/are" など	
[Advance] レッドイーグルス北海道 ○ 今後の予定	◆今後の予定についてやり取り ・"未来形" など	
[Advance] デンソー北海道 ○ ウィンタースポーツ	◆スポーツについてやり取り ・"過去形" など	

映像資料の活用例

〔「字幕なし」バージョン〕

- ・授業において学習内容に関する映像資料を視聴し、内容について分かったことを伝えたり書いたりします。
- ・家庭学習等において映像資料を視聴し、どのような内容が話されているか聞き取ります。



道教委Webページにある「ワークシート」を活用し、ディクテーション学習をすることもできます。



Webページ

〔「英語字幕あり」バージョン〕

- ・英語字幕のある映像資料を視聴し、聞き取ることができなかった内容などを確認するとともに、再度、「字幕なし」バージョンの映像資料を視聴し、内容を聞き取ります。

字幕がなくても、ある程度まとまりのある英語を聞いて、必要な情報や概要を聞き取ることができるよう、繰り返し視聴することが大切です。



〔「チャレンジ」バージョン〕

- ・映像資料を視聴し、選手が発話した後に続いて、繰り返し発話します。
※目的や場面、状況を意識しながら、発話するようにします。



映像資料で発話されている表現の音声を繰り返し聞いたり話したりするなど、効果的な表現を確認した後で、類似した話題等において、実際に活用することが大切です。